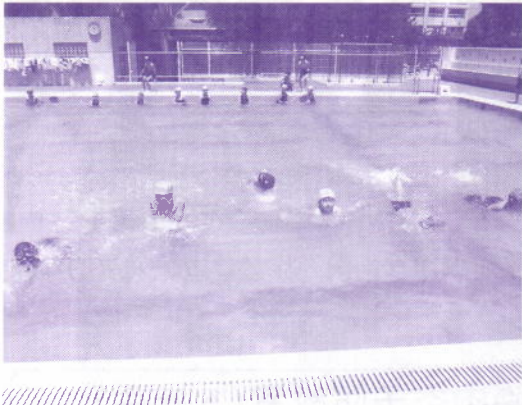




音楽鑑賞会(東京吹奏楽団)



交通安全教室



水泳授業



水泳授業



教育目標

深く  
考もる子供  
仲よく  
助け合う子供  
最後まで  
がんばりの子供

# よしえさんのバイオリン

「ふるさと白山の心」

教頭 永井裕子



ここに、長い間使われていなかったバイオリンがあります。これは、二十年ほど前に、白山小学校を卒業したよしえさんが使っていたものです。先日、よしえさんのお母さんが、「よかつたら、合奏部で使ってもらえませんか。」と学校に持って来てくれました。

よしえさんは、小学生の時、合奏部でバイオリンを弾いていました。それがきっかけで、新潟市のジュニアオーケストラに入り、ずっと大人になってもバイオリンを弾いていたのだそうです。でも、お嫁に行っても弾かなくなったので、よしえさんは、「白山小学校の子供たちに使ってもらえたらうれしい……」と思い、バイオリンをお母さんに届けてくれるようにお願いしたのです。よしえさんは、なぜそう思ったのでしょうか。

それは、よしえさんには「ふるさと白山の心」があるからだとは思っているのです。では、「ふるさと白山の心」とは、どんな心でしょうか。この心は、白山小学校にいる子供たちみんな、先生方にもある心です。白山小学校には、子供

たち・先生方・お家の人・地域の人たちで、昔からずっと大切に守ってきた「伝統」があります。例えば、「ぼくの木・わたしの木」、七月の「サマーコンサート」、部活動の「万代太鼓」、よしえさんも入っていた「合奏部」、「新潟まつり」の住吉行列や民謡流しへの参加、五年生を中心に今もがんばっている「ビオトープの世話」、一月のふるさと白山の日での「もちつき大会」などです。どれも、白山小学校では先輩から受け継ぎ、守り、そして後輩に伝えていく大事な活動です。このような活動を通して、白山小学校で学ぶ子供たち一人一人の心の中には、「ふるさと白山の心」が育っていきます。そして、白山小学校がみんなの心の「ふるさと」になっていくのだと思います。

「ふるさと白山の心」のある卒業生は、創立以来、何と一万四千五百人にもなりました。こんなに多くの人と、みなさんは、同じ心でつながっています。「ふるさと白山の心」があることで、お家の人や地域の人たちはもちろん、遠く離れている人とも、みんなつながることができるのです。

(七月の全校朝会の話から)